松島町総合教育会議議事録

1　**招 集 月 日**　　令和6年2月22日（木曜日）

2　**招 集 場 所**　　松島町役場庁舎2階　201会議室

3　**出　席　者**　　櫻井公一町長、内海俊行教育長、鈴木康夫委員（教育長職務代理者）、佐藤晴子委員、小澤晴司委員、櫻井智恵委員

4　**説明のため出席した者**
千葉忠弘教育次長、蜂谷文也課長、岸淳一学校教育班長、齋藤幹雄生涯学習班長、大久保哲也副参事

5　**議 事 日 程**
1. 開会　　令和6年2月22日（木曜日）午前10時45分　開会　（録音開始）

2. 議事
(1)中学校部活動の地域移行について
(2)その他

3. 閉会

6 議　事　録

１．開会　　午前10時40分

〔大久保副参事〕

ただいまより松島町総合教育会議を開催いたします。

初めに、櫻井町長よりご挨拶をよろしくお願いいたします。

〔櫻井町長〕

教育委員会の定例会がこの前に行われたということでございまして、本当にご苦労さまでございます。

また、今朝はこのように雪がどんと降りまして、二、三日前までは春がもうその辺まで来ているんじゃないかと思っていましたが、急に雪が降って、多分皆様の中でも、私も教育長さんも、腰が痛い人もいらっしゃるのではないかなと、そのぐらい重い雪でございまして、町内でもあちこちで、特にバス路線のところを気をつけて見ているんですが、竹がしなって折れてというところを今建設班が処理しているところでございますけれども、それ以上の大きな被害は出ていないようであります。ただ、やっぱり2月の時期なんだなと思っております。

ところで、能登半島地震からもう2か月になろうとしていますけれども、この間教育長ともお話ししたんですけれども、全国で災害があり、お正月からこの3月というシーズンを迎える場面での被災地の問題の中で、教育委員会の中には特に受験という問題がどうしても出てきているなと。東日本大震災、それから阪神淡路を振り返れば、どちらかというと子どもたちの進路指導に関わることについてはあまり重要視されなかったと。東日本大震災は3月11日ですので、もう方向は大体子どもたちは決まっていた中だったんではないだろうかなあというふうに思いますけれども、能登の地震についてはそういった、我々学校を抱えるものにとっての新たな課題というのが改めて浮き彫りにされたのかなと思っております。今後そういったことについても、先生方のご意見、ご助言等を賜ればと思います。

さて、昨年の教育会議は、教育大綱についていろいろお話しいただきました。教育委員の皆様からご意見を賜りました内容等について、一部修正を加えながら新たに策定することができました。本当にありがとうございました。

本日の議題は、「中学校部活動の地域移行について」という内容でありますけれども、部活動の地域移行も実は騒がれてからもう3年目ぐらいになるのではないかなと思います。これはただ単に自治体、市、町、教育行政管内の問題だけじゃなくて、これは県が全部そろって、国を挙げての問題になってきているということで、教職員さんの部活動の時間外のこともあるかもしれませんけれども、それに伴っての子どもたちの体を鍛える目的を持っている部活動です。子どもたちの目標に向かってどう指導していくのかという内容とか、様々な面からすれば大変難しい問題で、そういったところにきちっと国のほうも、県を通してですけれども、我々町村会はこの間文科省、昨年でございましたけれども、ちゃんと予算もつけていただかないと、ただ単に言葉だけ言われても末端の自治体は大変だということもありますし、それから一つの自治体だけでやれるものでもないだろうし、大会のことを考えれば、我々のことであれば中学校の部活動の大会のエリアもあるかと思いますけれども、そういったことの中での部活動の考え方もあるだろうし、いろんなことが考えられるので、総合的に指導者も含めて国のほうでちゃんと考えてほしいということは投げかけてはおりますけれども、なかなかこれは回答として戻ってくるまでには難しいのではないのかなと思っております。

我々教育委員会、教育長が筆頭になって、昨年から地元のクラブチームといろいろ話し合いをしながら、一つの部活動については方向性を見いだしておりますけれども、全体として運動部だけじゃなくて文化部についても今後どういった体制整備がいいのか、今日は皆様方から忌憚のないご意見をいただいて、この会議が有意義なものになっていただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。今日はどうもありがとうございます。

〔大久保副参事〕

ありがとうございました。

２．議事

(1) 中学校部活動の地域移行について

〔大久保副参事〕

それでは、議題に移ります。

中学校部活動の地域移行について、お手元に配付しております資料に基づき、教育課から説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

〔岸班長〕

それでは、学校部活動地域移行について、概要及び松島中学校での進捗状況等を説明させていただきます。
お手元にお渡ししております資料1から資料4の4つの資料を使いまして説明させていただきます。
申し訳ありませんが、座って説明させていただきます。
それでは、まず資料1になります。
こちらは以前にも説明しておりますが、学校部活動から地域クラブ活動への移行についてのイメージ図や、国や県の方針を示した資料となっております。
部活動の地域移行は、深刻な少子化の進行や教職員の働き方改革を背景に、令和7年度までにまずは休日における部活動の地域移行を進めるよう、国が方針を打ち出しておりました。しかし、地域により事情が異なり、
一律の移行が難しいということから、令和7年度までとしていた期間を定めずに、準備の整ったところから地域移行してくださいと国が方針を見直したところです。
宮城県におきましても、令和5年度を移行検討期間とし、令和6年度以降、準備が整った市町村から、まずは休日の部活動を地域に移行すると方針を示しているところです。
続きまして、資料2をご覧願います。
こちらは、1月に行われました部活動地域移行に係る圏域説明会で使用された資料となります。
資料2の4ページをご覧願います。
説明会では、まず部活動の地域移行、地域移行という名称が初めにテレビ等で報道されたことによりまして、一部混乱が生じている部分があるということで、改めて考え方が示されました。この地域移行というのは、学校の部活動を先生の代わりに地域の外部の指導者がただ教えるということではなく、学校教育活動であった部活動を社会教育法に基づく社会教育活動に移行し、地域全体で子どもを育てるよう環境を整えることであると改めて説明されたところです。
5ページ以降は、宮城県が県内の市町村に行ったアンケートや聴き取り調査の結果をまとめたものとなっております。
7ページをご覧願います。
7ページは、地域移行実施に向けた課題を取りまとめたものとなっております。
各市町村で検討が進んだことによりまして、課題が変化してきたことがわかる資料となっております。例えば話し合いを行っていく中で、関係団体に理解してもらうのに苦労しているといったことや、指導者についても、今までは確保するのが課題だとしていたものが、確保に加えて、その指導者の質も問われるようになってきたりしております。
松島町でも同様の課題を抱えておりますし、こういった課題が変化してきたとなっておりますが、5月に示された1番から4番に書かれてあるような課題がすべて解決したものではありませんので、今後もこういった課題解決に取り組んでいかなければならない項目となっております。
こうした中、町教育委員会や松島中学校における部活動の地域移行に係る進捗状況について説明させていただきます。
資料3、部活動の地域移行に関するアンケート調査の結果概要についてをご覧願います。
こちらは教育委員会で令和5年4月に生徒・保護者を対象に地域移行に対するアンケート調査を行い、また10月に教員に対しアンケート調査を実施した結果の概要になっております。
まず、生徒の地域移行に関する意識についてです。1ページの下段にありますとおり、部活動と地域移行、どちらで活動したいかを聞いたところ、8割の生徒が「部活動に加入したい」と回答しております。理由としましては、「同じ学校の仲間と一緒に活動できるから」「授業後、すぐに活動できるから」などとなっております。
次に、裏面をご覧ください。
上段が保護者の意識調査の結果となっております。部活動の地域移行について、76％の保護者が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答しております。理由としては、「専門的な指導が受けられる」「生徒が取り組みたい種目の活動ができる」といった内容の意見がありました。
次に、教員の部活動指導に対する意識調査の結果です。こちらについては、まず部活動に対して負担を感じていない教員は0％となっており、すべての教員が部活動指導において何かしらの負担を感じている結果となっております。負担と感じている理由としては、「休日の指導や大会の引率」「勤務時間を超えての指導」の割合が高くなっているところです。
このほか、町の取組として、町ではＰＴＡ連合会役員や体育協会、スポーツ推進委員、総合型スポーツクラブ及び中学校の校長等を委員とした松島町学校部活動地域移行検討委員会を立ち上げて、昨年7月と本年1月に2回検討委員会を開催しております。検討委員会では、宮城県の担当者にも出席していただきまして、県内の動

向や町の進捗状況について情報共有を図りながら、地域移行に向けた意見交換を進めているところです。
続いて、資料4をご覧願います。
　こちらにつきましては、現在の松島中学校の部活動の種目と所属人数となっております。こちらの資料の真ん中に赤線で囲われた1・2年生の合計という欄があるんですけれども、こちらの中で赤字になっているソフトボール、サッカー、柔道、卓球女子につきましては、人数が足りずに試合が行えない競技となっております。実際には文化部から助っ人を借りて新人戦等には参加しておりますが、次年度も入部者がゼロであったり少なかったりすると、大会に参加できないおそれもある競技となっております。
　右側に参考1として小学4年生から6年生までの児童数を記載しておりますが、見ていただくとわかるとおり、今後も生徒数の増加は見込めない状況となっております。
　こういった状況の中で、サッカー部については昔から実質指導に携わってもらっておりますマリソル松島が部員不足によるサッカー部の廃部の危機感を持っておりまして、サッカー部を地域クラブ化して存続を図りたいと申し出がありました。このまま人数の減少が進みまして、サッカー部が活動停止となるよりは、地域クラブとなり、現在小学6年生をはじめ町外からマリソル松島ジュニアに通っている子どもたちや近隣の子どもたちも引き入れて活動を続けたいということでありました。
　町としましても、松島中学校の生徒がサッカーをやりたいという思いがありながらサッカーができないという状況は避けたいので、マリソル松島、中学校、それから保護者等と協議・検討を重ねてまいりまして、現在サッカー部に在籍しております1・2年生の保護者の方からの理解を得られたこともありまして、令和6年度から松島中学校サッカー部は平日・休日ともに地域クラブに移行して活動していくこととしました。
　この件に関しましては、検討委員会や中学校の学校運営協議会、新しく1年生となる入学説明会でも説明をしているところです。
　このサッカー部の地域クラブ化につきまして、検討委員会や保護者説明会の席上で、中学校の校長先生からは、「地域クラブとなっても、松中の生徒には変わりない」ということで、「ほかの部活動と同様に、壮行式や、何か賞を取ったときは表彰式などを松中の中でもしていく」という話をされまして、そのあたりが保護者の理解を得た一因ではないかと思っております。
　資料4の2ページをご覧願います。
　こちらにつきましては、令和6年度、中体連に登録した地域クラブの一覧になります。サッカー競技についてはNo.6からNo.8になりますが、松島町のほか栗原市や富谷市で登録があったところです。
　3ページは、中体連の予選等の流れとなっております。サッカー部につきましては、今年度は左側の宮城郡大会から出場しておりましたが、来年度からは地域クラブとして登録しましたので、真ん中にあります競技団体実施予選会からの出場となりまして、先ほど登録一覧にあった3チームで予選を戦いまして、県大会出場を目指していくことになります。
　今現在地域移行として進んでいるのはこちらのサッカー部になるわけですが、ほかの部活動の地域移行につきましては、このサッカー部というのはマリソル松島が外部指導者として長年中学校の部活動に携わっていた経緯があり、地域クラブとなってからも、活動の準備が整っていて、保護者からの理解も比較的得やすかった面がありますが、ほかの部活動については一から準備、検討をしていかなくてはなりません。このため、すぐにという実現は難しいと考えておりますが、体育協会などの各種団体と今後も話し合いを続けていきながら、継続して活動ができる環境づくりを整えてまいりたいと考えております。
　以上で説明を終わらせていただきます。
〔大久保副参事〕
　説明が終わりましたので、ここからは教育長に進行役をお願いして、委員の皆さんから意見を伺いたいと思います。
　それでは教育長、よろしくお願いいたします。
〔内海教育長〕
　わかりました。
　今、岸班長のほうから一通り説明がありました。
　まず、説明があったことについて不明な点があれば、ここはどういうことなんですかと質問していただいて、その後に質疑応答というか意見交換をしていきたいと思いますが、まず説明の中でちょっとこれはわかりづらかったというようなことはありますか。資料1と資料2は国、県のやつなので、資料3、資料4あたりが実際現実的な話になるかと思います。
　特になければ、よろしいですか。小澤先生、どうぞ。

〔小澤委員〕
ちょっと質問なんですけれども、資料4の2ページに宮城県中学校体育連盟登録団体一覧とあるんですけれども、資料1でも資料2でもこの対象となる学校活動の地域への移行のイメージは、スポーツだけではなくて文化もあるということで、資料4では体育連盟の登録団体一覧は出しているんですけれども、中学校のどういった団体連盟というか、そういうようなところの資料というのは特につけられていないということでよろしいんですか。それは単に少ないからということですかね。
〔内海教育長〕
今のはわかりましたよね、中身はね。スポーツのほうはあるけれども、文化面ではどうだという話でございます。お答えできますか。
〔蜂谷課長〕
現在、スポーツのほうは進んではいるんですけれども、なかなか文化部の移行は進んでいない状態で、まだ登録団体とか、そういったところまでは至っていないというような現状と伺っております。
〔小澤委員〕
ありがとうございます。
〔内海教育長〕
やっぱりスポーツ関係が先行しているということで、ご理解いただければと思います。
他にございませんか。鈴木先生、どうぞ。
〔鈴木委員〕
先ほどご説明の中で松島町の地域検討委員会、PTAとかいろいろ入って2、3回会合をやったと。方向性について検討と。そこの委員会はどういう方向性が出ましたか。2、3回やった結果として、どんなまとめ的な方向だったか、ちょっと教えてください。
〔蜂谷課長〕
概ね参加されている方々、PTAさんとかスポーツ団体の方々については、今回は特にサッカー部の関係についてご説明させていただいたんですが、サッカー部の地域移行に関しては、概ねというか、了解をいただいたところではございますが、今後の進め方について、どのように進めていくかというのはやはり心配事としてご意見はいただいていまして、我々も、先ほどちょっと触れたんですけれども、今後も体育協会であったりとか、マリソル松島は総合型スポーツクラブでもありますので、サッカーだけではなくてほかの競技も受け皿となるような形で進めていけるよう、話し合いを進めていきたいということでお答えはしていたところでございます。
〔内海教育長〕
鈴木先生、よろしいですか。（「はい」の声あり）
では、佐藤先生。
〔佐藤委員〕
資料4の1ページなんですけれども、「外部指導者有」ということで、野球とかも書いてあるんですけれども、こちらはちなみにどちらなのか教えていただくことはできますか。関わっている指導。
〔内海教育長〕
外部指導者とはどういうのかも含めて説明してください。
〔蜂谷課長〕
外部指導者というのは、教職員が競技経験のないところで顧問をしていただいているところに、親御さんとかが専門的な方々がいいよということで、父兄の皆さんがこの方はどうでしょうかということで、学校を通して外部指導者として認めてもらえますかということで、経由で教育委員会に来まして、教育委員会でお願いをして、指導者として当たっていただいているんですけれども、基本的には個人の方で経験がある方ということでお願いしておりまして、野球であれば少年野球、ジュニアでコーチをやっている方であったりとか、柔道であっても経験して、今も柔道に携わっているような方ということでお願いしているようなところでございます。
〔佐藤委員〕
そうしますと、サッカー以外は個人の方ということになりますか。
〔蜂谷課長〕
そうですね。はい。
〔佐藤委員〕
ちなみに、マリソルさんについては何名ぐらい関わっていただいている形なんですか。

〔齋藤班長〕
マリソルでは、中学校に関しましては1名の方が一応外部指導という形で、そのほかに組織として成り立っていますので、小学校からのコーチ2、3名もたまに入ったりしますので、大体2名から3名ぐらいで回しているイメージです。
〔佐藤委員〕
そうすると、かなり長い。
〔蜂谷課長〕
長いですね。私が中学生のときには既に外部指導者の方がいて、今のマリソル松島の理事長さんがそのときは外部コーチとして来て指導に当たっていたという。
〔佐藤委員〕
じゃあ歴史があるということで。わかりました。ありがとうございます。
〔内海教育長〕
マリソルと松島ということで、関わりはずっと前から深いということで、それで今回という話になったと思います。
ほかにございませんか。はい、鈴木先生。
〔鈴木委員〕
さっき小澤先生が質問された資料4の2ページの中学校体育連盟登録団体一覧ですけれども、文化関係はそういう団体はないんですか。
〔蜂谷課長〕
ございます。吹奏楽の団体とかがあります。
〔鈴木委員〕
ありますよね。私、お茶を昔やっていたときに、日本茶ね、仙台でね、中学生がいっぱい来て、何か協議会があったとかなんかってチラッとね。だから、ああいうのというのもベースに、今後いろいろ見ていなかきゃならないんじゃないかな。
〔蜂谷課長〕
そうですね。同じように、はい。
〔鈴木委員〕
ありますよね。
〔蜂谷課長〕
あります。そちらのほうも、やはり松島町も吹奏楽部とかがありますので、その辺についても併せて検討は行っていかなくてはならないということで、いろいろ今各種団体さんとかお話をいただいているようなところもありますので、その辺の調整を図っているようなところでございます。
〔内海教育長〕
よろしいですか。（「はい」の声あり）
ほかにありますか。
なければ、ご意見を頂戴していきたいと思いますので、ある程度お話を進めてまいりますので、ざっくばらんに、最終的にはいただいたものを提言みたいな形でまとめるというわけではないんですが、私たちこれから鈴木委員さんがおっしゃったような吹奏楽部あたりも、文化部も含めて考えていく一助にしていただくと、一助というか、そういうアドバイスをしていただけるとありがたいなと思いますので、どうぞ忌憚ないご意見をお願いいたします。
櫻井さん、いいですか。どうぞ、お願いします。
〔櫻井委員〕
じゃあ質問……。
〔内海教育長〕
質問でも何でもいいです。
〔櫻井委員〕
すみません、マリソルさんの活動についてなんですけれども、サッカー部の受皿がそちらになるということで、費用のほう、入っている子の負担と、活動の頻度というのは部活動でやっていたときと同じぐらいになるのか。土日の活動とかはどうなるんでしょうか。
〔齋藤班長〕

まず費用の面ですけれども、今現在松中に入っている子たちは月4,500円かかっているそうです。そして、地域クラブに移行した場合に、最初にボールとかユニフォーム、ジャージ、そういったものを初期投資として若干は、最初はどの部活動でもそうですけれども、野球のバットを買うとか、バスケットであればボールを買うとか、そういう初期投資だけはちょっとかかるみたいですけれども、来年地域移行した場合には大体5,000円ぐらいを目安にしていきたいということで、すぐ上がるわけではなくて、ほかのスポーツクラブですと月謝が大体1万円から1万5,000円とか、仙台のほうのスポーツクラブはそうですけれども、マリソル松島は5,000円ぐらいを目安にしているそうです。

あと、活動につきましては、部活動の場合は平日1日、あと土日の場合はどちらか1日休ませてとなっているんですけれども、基本的にはそれを守っていくような形で、あとはハイシーズンと言われる大会が近いとき、その辺は、もちろん子どもたちの康状態を見ながらですけれども、休みを平日1日でなくて、平日は時間を調整しながら毎日やるとか、そういうふうなものに関しましてはクラブのほうの方針で決めていくことになります。以上です。

〔内海教育長〕

もう一回、中学校としては活動費は取っていませんけれども、松島中学校のスポーツ団体として取っているんだよね、サッカーは。

〔蜂谷課長〕

サッカー部も会費として取っております。

〔内海教育長〕

何か二重になっているということをもう一回説明して。

〔櫻井町長〕

今の説明だと、部活動をやっている人たちは、松中の部活動はどの部活動でも月4,500円取られているのかというふうに取られやすいし、そして地域移行をするとたった500円ぐらい上がって5,000円ぐらいだよというような説明に取られるから、ちょっと説明不足じゃないかなと思って。

〔蜂谷課長〕

今、部活によってそれぞれ会費の集め方が違うような状況になっていまして、例えばバドミントン部だとシャトルを買うときとかに決まったお金をみんなで集めるような形で、サッカー部については月4,500円を会費として集めて、その中で大会に出たりとか消耗品を買ったりとかしているところではあるんですけれども、そのお金、月々の4,500円が移行した後は5,000円くらい、同じ会費としてそれを徴収していくというような考えを示されているところです。

〔内海教育長〕

あと、地域移行になると受益者負担だという話を説明して。

〔蜂谷課長〕

はい。今回国から示されているものとしては、地域移行にした後のそのお金ですね、会費とかも、指導者とかをつけるので、そういったお金については国から出るのかなと思うんですけれども、そうではなくて、やはり受益者負担の中でその辺も賄ってくださいよという指針が示されておりますので、今回マリソル松島さんも指導者についていただくんですけれども、今までもそうなんですけれども、指導者のお金もその5,000円の会費の中から支払っていく、手当てしていただくというような形になっております。

〔内海教育長〕

それで、町長も言いましたように、受益者負担でいいんですかという、国の説明ですということで、今そこが最も悩ましいところです。これからいろんな部活が移行されて、4,500円だったり3,000円だったり2,000円だったり、ひょっとして1万円だったりするんだけれども、国としての何か手当てはないんですかという話で、そんな感じで子どもたちを離していいんですかというのは、うちの町だけじゃなくてすべての市町村で悩ましい部分となっているということだけご理解いただければいいのかなと思っています。

〔櫻井町長〕

部活動というのは、全体的なものの考え、多くの首長さんたちが集まった中の総体的な意見とすれば、部活動も教育の一環だろうと。部活動も教育の一環なので、やっぱりそこには指導者というのがきちっといなくちゃならない。そこでいろんな備品を買うものについての消耗品的なものはそこに参加している子どもたちが負担するのはまず別として、指導者のものについては国がきちんと手当てをするのが教育の一環ではないのかということで、費用負担を求めるというのが町村会、これは市もそうだと思いますけれども、全体的なものの考え方で文科省に言っているということです。

〔内海教育長〕
はい、鈴木委員さん。
〔鈴木委員〕
今町長が言われた費用負担、教育の一環だと思うんですよ、地域でしても。例えばマリソルはマリソルで素晴らしい組織だと私も思うんですが、その指導の在り方。部活動は学校の先生がやったから、教育ってこういうものだよということをしっかりご理解されている。まさかいじめはしない。一般のね、民間に、それはやっぱり教育の一環なわけですけれども、その指導者への指導というのも私は非常に大事だと思うんですよ。スポーツだけの指導ではなくて、何だろう、やっぱり教育の一環だよと、こういうことをしちゃいかんよとか。そうすると、これは大事なんだけれども、教育委員会かどこかが、チェックじゃないけれども、あるいは関連するような、あるいは今まで部活をやっておられた先生がたまに行って関与できるとか、あるいはさっき言ったＰＴＡの連絡協議会の地域検討委員会ですか、そういうところも関与できるとか、そういうような環境というのがあったらいいなと思うんですけれども、それが1点ですね、課題ですね。
あともう1点。さっきの価格、4,500円だったのが、今はマリソルは5,000円くらいとか、受益者負担になってくるわけですけれども、5,000円がもしかして別な団体、サッカー以外ができてくるとか、そこの決め方というのはやっぱりそこの方たちが決めていくと思うんですよ、その組織の。そうすると、どうしても、何ていうんだろうな、うちはお金がそんなにないんだという家庭、うちはお金はもっと高くたっていいよと、もっといい何か、こういう備品をそろえたら高くてもいいよとかという、そういう話って出てくると思うんですよ。学校はそれはね、まあ貧乏でも、子どもたちがやろうっていう、結局ルールなんだな。そうすると、なかなか参加できないなあ、ちょっと高いからと、そこのところを何かちょっと、資金的にバックアップというのは難しい話ですけれども、そこのやっぱり指導者というか組織に対するその辺の、何ていうのかな、関連するところがいいかなというふうにちょっと思いますけれども、いかがでしょうか。
〔内海教育長〕
まず金額についてお話が出たので、これはやっぱり丁寧に保護者に説明していかなきゃならないと思うんです。4,500円にしろ5,000円にしろ3,000円にしろ2,000円にしろ、理解してもらうということ。
それから、鈴木委員さんからお話があったチェック機能ですよね。ちゃんと学校に見合って、学校の部活動が教育の一環としてやっていたのが、そのままというわけではないにしろ、ちゃんとやっているのかどうかチェック機能をかけていくという、それについては千葉次長のほうから。
〔千葉教育次長〕
鈴木先生のお話にあったとおり、地域に移行したからといって教育委員会とか中学校が全く無関係というのはやはりよろしくないというふうに思っておりまして、うちのほうで今考えているのが、地域のクラブと教育委員会と、あと松島中学校の三者で覚書を交わしまして、生徒指導事案、例えばいじめとか何かそういうのはないかとか、それからけがとかがあったときはすぐ中学校とか教育委員会に報告することとか、そういうのを含めて、覚書を交わしていこうというふうに考えております。
あと、向こう数年は私たちも関係しまして、保護者のアンケートとか生徒のアンケートなんかも取って、それも示してくださいよというのも地域のクラブのほうには話をしていきたいというふうに思っております。
あと、指導者ですが、たしか県のほうで指導者の研修会とか、やはり定期的にやっていかないと、私もこの前教育委員会の立場で参加してきたんですが、昭和の教え方では今はもう全然駄目だよという、もう全然教え方が異なっているというのをまず指導者に理解してもらってからでないとやはり駄目だということもありますので、研修は定期的にしていかなければならないことというふうに思っております。
以上です。
〔鈴木委員〕
ありがとうございます。もう1点いいですか。今現状でこういう流れの中で、サッカーはいいですけれども、ほかの松島としては松島中学校の部活動をうちがこういうのをやってみようかなとか、そういう声がけというか、あちらからの要望とか、民間からの、それはどうなっているかというのをちょっと。
〔内海教育長〕
それでは、千葉次長、お願いします。
〔千葉教育次長〕
まずは運動部というお話が先ほどあったんですが、実は昨日もちょっとあったんですが、もしかするとブラスバンドの関係で、今仙台でジャズをやっている方々が、もしかしてうまく地域部活動にマッチングできる可能性があるなというお話を教育長と私どもで一緒に聞いておりまして、あと学校のほうにもちょっとその旨お

話をした上で、もしかすると次はブラバンが少しきっかけをつくれるかなあと今ちょっと思っているところです。ブラバンって吹奏楽部です、すみません。
〔鈴木委員〕
いいですね。そういうのがどんどんあるといいですね。素晴らしい。
〔千葉教育次長〕
あとは、運動部につきましては、やはりどちらかというと外部指導、先ほど晴子先生からもありましたが、外部指導を今いただいている部に関しては、比較的次に進みやすいかなというふうには認識しておりますので、あとは外部指導を置いていないところは今からいろいろ私たちも働きかけていかないと駄目だなというふうに思っています。
以上です。
〔内海教育長〕
それから、マリソルも地域総合型スポーツクラブなので、種目を増やしてもらう要望をすると言っていたので、蜂谷課長、もう一回そこら辺。
〔蜂谷課長〕
マリソルも、現在例えばテニススクールであったり、バドミントンスクールであったり、持っておりますので、そういったところも切り口としながら、総合型スポーツクラブというのを生かしていって、サッカーだけではなくて手広く受け皿となっていただくような形で今後調整を図れればなというふうには考えております。
〔内海教育長〕
小澤委員さん、どうぞ。
〔小澤委員〕
昔の小さい頃の思い出と、あとこの課題に関して感じていることと、その後松島町での可能性についてちょっとだけ述べたいと思いますけれども、私の小さいときの記憶で課外活動というと例えば路地裏での石けりとか鬼ごっことかかくれんぼとか秘密基地とか、そういうものをやっていたという記憶があります。それで、50年ぐらい前ですと、恐らくこういうクラブ活動だけではなくて、地域にいろんな趣味の人がいて、そういう人たちが子どもを見ていたんじゃないかというような気がするわけです。ちょっと古いかもしれませんけれども、ムーミンで言えばムーミンの指導者はスナフキンだったり、ナウシカの指導者はユパ様であったり、学校じゃないところに、地域にいろんな専門家がいるという、そんなイメージなんですけれども、今回のこの課題は、どうしてもやっぱりスポーツ、要は獲得目標としては、いろいろなスポーツ団体を学校ではもう手に負えなくなってきている、学校の先生方も。でも、地域でそこを受けて、そしてその先には何があるかというとインターンとか国体とか、さらに言えばオリンピックがあるとか、そういったところの獲得目標がもしかしたらあるのかどうかというのはちょっと置いておいて、私は文化活動、例えば昔はキノコのおじさんとか、ネコのおばちゃんとか、いろんな人たちがいて、地域で言えば農産そのものがいろいろな学びの場所であったというところを振り返りますと、松島町の可能性というのは既に「松島まるごと学」ですかね、いろんなことをその職業の方、そういう人たちのなりわいそのものが学びの対象を抱えているんですね。地域のクラブ活動という表現ではないのかもしれないけれども、学校外での子どもたちを受けるいろいろなプラットフォームとしては、さらに少し目を広げる余地があるんじゃないかというふうに思いまして、それで、こういう松島ならではであれば、その「松島まるごと学」から展開するような様々な活動、つまり球技とかスポーツ、そこに集約しないで考えてみると面白い可能性があるんじゃないかという、そういうふうに感じましたので、ちょっと述べさせていただきました。
〔内海教育長〕
ありがとうございます。「松島まるごと学」では、やっぱり多種多様な方のスペシャリストがいますので、そういうのも視野に入れるという感じで承っておきたいと思います。
では、佐藤委員さん、お願いします。
〔佐藤委員〕
そもそも論でお聞きするんですけれども、部活動の休日というところなんですけれども、そうしますと平日はどうなるのかというところあたりを伺いたいんですけれども、例えばサッカーですとマリソルさんの休日、じゃあ平日の部活、このサッカー部は平日はどうなっていくのかという。
〔内海教育長〕
説明不足だったので。
〔蜂谷課長〕

すみません、県では土日からということで、国も県もお話をいただいているんですが、マリソルの場合は平日も外部コーチが来て指導に当たっていただいているもので、平日から、初めからフルでの地域移行という形で移行する形になっております。なので、平日もクラブ、マリソル松島ジュニアユースとしての活動となります。

〔佐藤委員〕

練習場所は同じところで。

〔蜂谷課長〕

そうです。松島は運動公園がありますので、今もそちらのほうで練習はしておりますので、基本的には同じ場所で行うという予定になっております。

〔佐藤委員〕

そのあたりも各市町村に任せられているんですか。

〔内海教育長〕

全部。

〔佐藤委員〕

基本的には休日はやって、平日はもしかしたら学校でやるところもあるという理解なんですかね。

〔蜂谷課長〕

そうですね。

〔千葉教育次長〕

最初のステップは、晴子先生がおっしゃるとおり、休日は地域、平日は先生というのがまず基本形だと思います。うちのサッカー部、マリソルに関しては、もうゴールまで一気に行ける状態、行ったという形なんですよね。ただ、ゆくゆくは休日だけじゃなくて平日もそのような形にしていきなさいよというのが国の示している中身ですので、そこまでには越えなければならないハードルはかなりあると思うんですが、ゆくゆくのゴールは平日も地域でというのがあります。

〔佐藤委員〕

そうすると、部活動によっては、平日は学校だけれども休日は別の場所という場合もあるということですね。要するに地域の方で指導してくださる方が指定する場所になってくるのかなという。

〔千葉教育次長〕

その場合もありますし、あとは松中で言えば中学校の体育館はそのまま使って、あと指導者は先生じゃなくて別の方に中学校の体育館で指導してもらう、例えばブラスバンドで言えば中学校の音楽室に指導しに来てもらう、そういうパターン、いろんなパターンがあるのかなとは思っています。

〔佐藤委員〕

結局一番は安全面とか、保険関係だったりとか、そういうところも結構関係はしてくるのかなというふうには思ったりするんですけれども、保険とかも受益者負担という形になってくるのかというのも一つ財源としては課題としてあるのかなというふうに感じております。

〔蜂谷課長〕

やはり土日と切り分けと、平日に入っている保険と、土日のいわゆる地域移行したところの保険というのは別々の保険に加入するという指針が示されておりませんし、その辺がちょっともどかしいところであるかなと思います。今回のように、平日からマリソルのようになると1本の保険で済むということにはなるんですけれども、基本的にはそれも受益者負担という形になります。

〔佐藤委員〕

ありがとうございます。

〔内海教育長〕

ここ数年、数年って何年になるかわかりませんけれども、過渡期で、少しそういうごたごたした状態になると思うんですけれども、今お話を聞いていて、やはりお金のことはしっかり伝えていかないと、保険でね、ケガしたらどうしてくれるんだとかというのは、いいアドバイスをもらいましたので、さらにそこら辺は丁寧に説明していくということで、これから広がる、移行する部活動ですからね。

ほかにございませんか。

〔櫻井町長〕

今ので1つだけ確認なんだけれども、平日はどの競技でも、文化部でも、何をやっても、それに対しての保険というのは学校保険の中1つで賄っているということ。わざわざそのために入るということはない。（「はい」

の声あり）ただ単にマリソルさんが今後こういうふうにするから、土日にかけてのあれを見るというだけの話。そういう切り分けないと、平日も保険をかけなきゃならないのかとなるから、今のはちょっと、マリソルのは確かにそうなんだけれども、今までと同じだよということ。

〔内海教育長〕

そこのところも十分に受け止めて、対応していただきたいと思います。

他にございませんか。では櫻井委員さん。

〔櫻井委員〕

野球部の話をしても大丈夫ですか。（「はい」の声あり）

私の息子は今松中で野球部に入っているんですけれども、部活の地域移行について私は賛成というか、先生の負担とかも減ると思うので、いいなと思っているんですけれども、外部指導の方も入っていただいていて、年度途中で昨年度、スポーツ少年団として松中も兼ねる、以前も入ってはいたんですけれども、ちょっと空いた時期があったみたいで、子どもたちの練習時間を確保するために、スポーツ少年団でも登録して、土日の練習時間を確保したいということで加入したんですけれども、7月末ぐらいに加入したので、実際スポ少としての活動は8月以降なんですけれども、普段の部活のほかに1日スポ少で別な時間で別の場所で活動するということがあって、あと土日もやりたかったけれども、結局土日どちらかは休みにしてほしいという形だったので、なかなかうまく地域移行ができないような感じだなと私は保護者として感じていまして、土日どちらか休みにする、それは必要だと思うんですけれども、結局スポ少としての活動がうまくいかないねということで、来年度は保護者会としてスポ少には一応加入しない形になってしまったので、部活の地域移行がちょっと遅れてしまうなという、ちょっと残念に思っていまして、平日のスポ少活動をするとなったときに、場所を移動しなくてはいけなかったんですね。学校での部活動とスポ少での活動を別にしなくてはいけないということで、一旦家に帰ってから来てくださいという形があったので、そうすると、子どもによっては一回帰ってその場所に行くまでに往復で1時間、片道30分だったり1時間かかったりする子もいるので、それであればもう学校で本当に部活をやったほうが、移動時間とかも考えると学校でやったほうがいいよねという流れもあって、スポ少はなしみたいな形になってしまったんですけれども、地域移行をしていくんであれば、そういう学校からスポ少での活動までの移動を認めてもらうとか、一旦家に帰るとかという形ではなくて、そういう猶予というか、ちょっとゆるさを持たせていただけたらありがたいなと思って、まだ部活に入って1年経っていないですけれども、そういうのを考えていました。ちょっと危なかったりもするので、やっぱり移動する時間とか。

〔内海教育長〕

答えられるかな。

〔蜂谷課長〕

運用の方法として、例えば学校の体育館であったり校庭を使うときは、普通の町民の方が学校開放という言い方で使うことも運用していますので、その辺柔軟に対応できないかどうかというのは今後検討させていただこうかなと思っております。

〔櫻井委員〕

お願いします。

〔内海教育長〕

ちょっと私もあれだったんだけれども、まず学校の野球部をやった後、場所を変えてスポ少の野球をしていたと。

〔櫻井委員〕

水曜日とか火曜日とか、そのときによるんですけれども、その日は部活動を休みにして…

〔内海教育長〕

そうかそうか、部活がないときにスポ少があるわけだ。そうすると、一旦お家に帰ってからスポ少に行きなという話。

〔櫻井委員〕

そうです。

〔内海教育長〕

じゃあちょっと確認して、回答して。

〔蜂谷課長〕

はい。さらに部活動以外にももっと練習したいという話での活動ですよね。

〔櫻井委員〕

そうです。
〔佐藤委員〕
あと、いいですか、関連してなんですけれども、今どちらか休みとしているのは学校でやっているから休みなんですよね。それが地域移行になったら土日両方やるとかというふうな。
〔蜂谷課長〕
その辺はクラブ側の判断にはなってくるので、先ほど斎藤が説明したときのように、ハイシーズンになって、大会が近いときは休まないで続けて練習したりという、その辺はクラブのほうの判断でやっているわけなんですが、ふだんは中学校の部活動だと土日のどちらは休み、平日に1日休みを入れるという運用の中でやっているところになります。
〔佐藤委員〕
今は学校の教員がやっているので、その負担軽減ということでどちらか休みというふうにしているんですけれども、これが地域移行になったら、やっぱり運営側にある程度任されて、土日もしかしたらやるかもしれないし、休みかもしれないしと、そのあたりが、その任されたところが運営していくという考え方でよろしいですか。
〔蜂谷課長〕
そうですね。はい。マリソルはやはり今までの部活動をあまり変えない形でやっていきたいという方針があるので、休みを入れるような形で考えているようなところです。
〔内海教育長〕
そういうご心配もあると思うので、それは受け止めながらも、これからマリソルは中学校の部活動に準じていただくというのは基本路線としてはあるので、できるだけ子どもに、例えば平日は1日休んで土日はどっちか休んだりするということは準じてもらうつもりではいるんですけれども、ほかの部活にも波及した場合は、そこはやっぱりちゃんと覚書等でチェックをかけておかないと、もうそれこそ毎日夜遅くまでね、へばるくらいやって、土日もやるとなったら、本末転倒になっちゃいますので、そこら辺は私たちもしっかりコントロールしていかなきゃならない。それは文化部も同じだと思います。すべてハイッ！と丸投げできるような話ではないので、やっていきたいと思います。大変貴重なご意見、ありがとうございました。
大体予定の1時間程度になってきました。あと町長にまとめていただきたいと思いますけれども、今本当に短い時間でいろいろ大切な話を聞かせていただきました。指導者への指導はどうするか、つまりチェック機能はかかっているのかと、これはやっぱり私たちにとっても重要な話だし、あと金額ですよね。受益者負担といっても、法外な金額がどんと取られては、それはもう何のための移行なのかわからない。資金稼ぎかと言われてもしようがないし。
あと、文化部の在り方について、今次長が言ったように、ブラスバンド部はいい感じで出ているので、これは大切にしていきたいと思いますし、あと小澤委員さんのほうからも「松島まるごと学」のスペシャリストの活用というのも、ああ、なるほどなと思いましたので、そういう長期的にやっていただく方を探していきたいなと思います。
あと、最後になりましたけれども、今みたいな野球部の在り方とか、そういう地域移行に行く前の段階での問題というのもあるので、そういうのも私たち十分に検討していきたいなと思います。本当に貴重な意見、ありがとうございました。
〔鈴木委員〕
ちょっといいですか。
〔内海教育長〕
はい、では鈴木委員。
〔鈴木委員〕
おっしゃったとおりなんですが、教育委員会だけじゃなくて私たちも町に住んでいる高齢というか大人、ここの子どもたちがやっぱりスポーツ、文化、心身共に育っていくような、部活はその大きな役割を持っていますので、そういう場を提供するというのは義務なんですよね。やっぱり絶対にやっていかなきゃならないなと思います。そのためには、何ていうのかな、先ほど小澤委員がおっしゃられた「松島まるごと学」みたいなもの、あるいは今日の教育委員会であった瑞巌寺の書道、それからさっきのプラパンとか、そういうような地域からの民活みたいな、そういうところを、地域の活動を活発化させるような、そこのスタンスですね、我々のスタンスというか教育委員会で、どんどんどんどんそういうのでオリジナルをつくっていくという、これって極めて私、そういう立ち位置にいたほうがいい。あんまりルールをつくってうるさくするよりも、それも大事

なんですけれども、そういう立ち位置でどんどん、いっぱい個性的なのがあるといいなと思ったもので、ぜひ。
〔内海教育長〕
ありがとうございました。
先ほどの定例の教育委員会の中で鈴木委員さんからお話があった民間の活力をして、例えば書道部とか、それはうちが顧問じゃなくて民間の力の中に子どもたちが吸い込まれていくとか、あと茶道部とか日本部……、わからないと舌をかんでしまうのでやめますけれども、そういうのって確かに長続きするというのを私も認識しています。そういうのも一応模索して、移行、移行って誰かに預けるだけじゃなくて、そういう地域を見ていければなと思いますので、本当にありがとうございました。
では、本当最後大変でしたけれども、よろしくお願いいたします。
〔櫻井町長〕
今部活の話をしていましたけれども、松中だけの話をしていますけれども、今幼・小・中の仲間で結構人数が集まってやっているグループは空手なんですよね。ここにはもしかすると30人とか40人とかという子どもたちが、幼稚園ぐらいの子どもからから中学生の子どもまで、結構な子ども、男女問わず子どもたちがいて、私と教育長はわからない大会がいっぱいあるんですけれども、そこで結構優勝とか準優勝とか、そういう素晴らしい賞を取っている子どもたちもいるので、そういった子どもたちが中学校に入ってきても、空手を教えてくれる先生がいるので、町内で町の施設を借りてやってくれているんだと。ただ、そういったものと同じように、書道にしても、個人の市民が延長の部活がいっぱいあると思うんだけれども、そういったものは松島でもいろいろ、俳句でも俳句大会もあるし、瑞巌寺の書道のやつもあるだろうし、いろんな、本当に子どもたちが多く参加して、それこそ先ほど小澤先生とか鈴木先生から出たけれども、郷土学もあるだろうし、いろいろやっていただければというふうに思います。
ただ、指導者の予算は6年度は教育委員会のほうでは多い少ないは別としてやっと取っておりますけれども、そういったものが方向づけが少しずつ固まってきて、予算が増えていくような方向になればいいのかなというふうに思います。
それから、スポーツ系の中学校の部に関しては、教育長さんとお話ししているんですけれども、もうこれだけ子どもたちが少なくなってきている中なので、中体連の枠組みなんかは早急に変えないと駄目なのではないかと。2チーム集まって勝ったほうが優勝なんていうことじゃなくて、やっぱりそこに競り合いというのも少し出ているほうがいいだろうと。ただ、そういったところにくると、今度指導者はどうしても保護者から勝負を求められるんだと思うんですね、勝ち負けを。そうすると、負けてばっかりいるとあの指導者は一概に全部駄目だというふうになっちゃうので、そういったところはやっぱり難しいんだろうなと。今斎藤班長が小学校の野球をコーチとして教えているようなので、関わり方の度合いというか、そういったものをさっき三者で千葉次長のほうが見ていくということは言われたんだけれども、そういったところでしっかり見ていかないと、裏でいじめがあったりしてくるので、それから、やっぱり監督を任せられて、私だったらやっぱりどうしても勝ちたくなるからね、そうするとあの指導者はいいというふうになるので、それだけではないんだろうなと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。
この先、この問題はずっと、そう簡単には解決することなく、今月27日、来週の火曜日ですかね、松島から出ている杉原県会議員さんがクラブの地域移行ということで一般質問する予定もあるようですから、そういった県の回答なんかも聞きながら、町の参考にしていきたいと思います。
あと、全国の町村会では、文科省には、ぴたっと当てはまるか当てはまらないかは別として、地域おこし協力隊に部活動の指導員として3年間なら3年間やっていただいて、そこには300万円ずつ3年間出るわけなんだけれども、部活動を教えながら何か定職を持てるような仕組みをその町で考えられないのかというような話題も出ていますけれども、そういったことについても結構いろいろ我々の立場からも、また先生方の立場からもいろんなご意見を賜って、まさしく部活動の移行というものはまだ始まったばかりなので、手探りの状態でいくんだろうというふうに思いますので、今日以降もいろんなアドバイス等々、ご指導を賜ればというふうに思いますので、よろしくお願いします。
今日はどうもありがとうございました。
〔内海教育長〕
事務局長、お願いしたいと思います。

3. 閉会　　午前11時46分
〔大久保副参事〕

本日予定しておりました議題については以上となりますけれども、ほかに委員さんのほうから何かございますでしょうか。

なければ、以上となります。

それでは、以上をもちまして本日の松島町総合教育会議を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

〔櫻井町長〕

教育委員会で報告したんだろうと思うけれども、松中の子どもたちの募金の話は先生方にはした？

〔内海教育長〕

では、お願いします。

〔蜂谷課長〕

このたび、能登半島地震で、大きな被害があったということで、松島中学校の生徒会が中心になりまして、募金活動を学校で行っていただきました。生徒、それから父兄、教職員の方もご協力いただきまして、約13万円の募金が集まりまして、それを生徒会長さんが生徒会の方と一緒に町長に持ってきていただきましたもので、昨日、そちらについて、危機管理監をはじめ町職員が能登に入らせていただいておりますので、本日10時半に能登町の教育委員会にお持ちしまして、中学校の皆さんのために使っていただくようにということで、お金を向こうの教育長さんにお渡しさせていただいております。報告させていただきます。

〔内海教育長〕

すみませんでした、遅れました。

この会議録の作成者は、次のとおりである。

令和6年2月22日

松島町総務課総務管理班　副参事　大久保　哲也